

第 45 回宇都宮市民芸術祭 彫刻部門 審査総評

第 45 回宇都宮市民芸術祭彫刻部門の出品数は 14 点で、そのうち 5 点が高校生の作品でした。高校生で制作時間が限られている中、出品していただき感謝いたします。

今回も素材や技法にこだわった多様な作品が出品されました。楽しみながら制作して表現したもの、自分の信条を作品の中に込めようとしたもの、素材のあるがままの形状を生かしたものなど。市民芸術祭では彫刻部門となり、工芸部門の作品と明確な線引が難しい部分もあります。しかし立体作品として観てみますと良い作品には部門にこだわらず、存在感を示しています。

市民芸術祭賞は金属を溶接した力強い存在感のある作品となりました。安定感のあるピラミッド形状の中に heart を上手に配置できています。

準市民芸術祭賞は残念ながら遺作となってしまいましたが、毎回出品して頂いている長谷川 滋様の「ぎー曼荼羅」が選ばれました。いつも緻密な仕事とカラフルな彩色をした作品が今後鑑賞できなくなるのは寂しい限りです。ご冥福をお祈りします。

審査長 島田 幹男